

令和3年度 事業報告

第6期地域福祉実践計画の初年度となる令和3年度は、「ともに支え合い、みんなの笑顔が見えるまちづくり」を基本理念に、地域における住民同士のつながりを推進する活動や、個別の課題に対して、社協内部及び関係機関と連携を図りながら積極的な支援を行いました。

また、苫小牧市の取り組みである「ふくし大作戦IV 2021」の企画・運営に当会職員が参画し、行政と協働して福祉のまちづくりに取り組みました。

新たな取り組みとして、得意な活動だけに限定してボランティア活動をしていただく「だけボラ」事業や、交通手段の少ない地域における高齢者の通院をボランティアや企業の力を借りながらサポートする「移送サービス事業（勇払）」に取り組み、利用されている方から大変喜ばれております。

町内会や老人クラブ等、地域の皆様に昨年から提供してきた「苫社協発！たのしめる便」は、引き続き発行を望む地域の声に応え、つながりを絶やさない取り組みとして提供を続けました。そのほか、SNSの活用による広報活動や「地域の見守り活動ホッとガイドブック集Ⅱ（防災編）」を発行するなど、コロナ禍において極力接触を伴わない情報発信を行いました。

コロナウイルスの影響により、緊急小口資金や総合支援資金といった貸付制度の期間延長に伴い、一時的に生活が困窮した方に対する自立支援のための貸付を継続して行いました。

介護保険事業等では、感染拡大防止に努めながら事業を継続するとともに、専門スキル向上のための研修を引き続き行ってきました。

成年後見支援センターでは、令和4年度からの中核機関化、東胆振三町との広域化に向けて、苫小牧市とともに各町と具体的な事業のあり方について協議を重ね、体制づくりを行いました。

以上のように令和3年度は、未だコロナウイルス感染症の収束が見えない状況にありながらも、感染対策を行いながら地域住民の皆様とともに、さらなる地域福祉の推進に向けて事業を展開してまいりました。